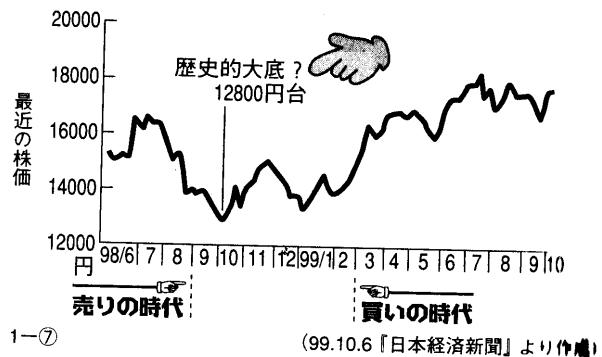
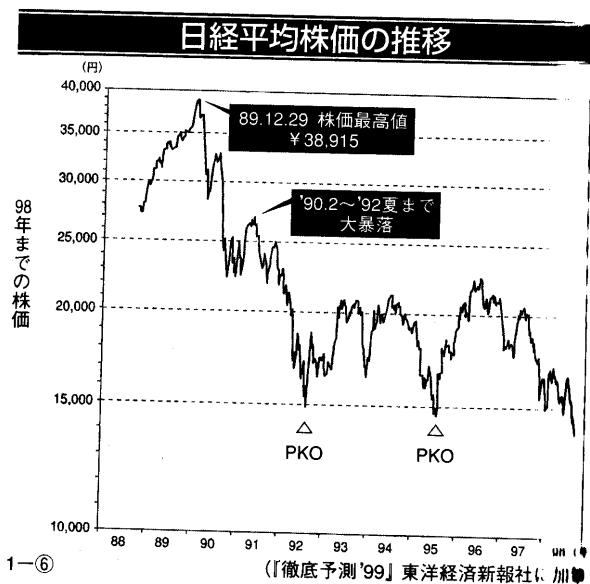


2000年の本。



たとえば、1945年8月15日に太平洋戦争が終結したが、本当の戦争が終わったのは実は翌年の1946年だ、といってよい。1946年、戦後の大混乱の中で、日本国は戦前から国民に対して負った借金をすべてチャラにしたのである。これを徳政令という。国の借金をすべてチャラにして、国民の財産を奪い取って、そこから戦後の日本が始まった。ある日、日本国はすべての預貯金を封鎖した。それまで使っていた旧円を紙くず同然、ほとんど使えないものにしてしまった。

そして、その預金封鎖をしていた3年間にハイパーインフレが起こったのである。そして、戦争中に発行した戦時国債(図2-⑯)も紙くずにしてしまったのである。この徳政令で、すべてをチャラにして、日本国は戦後のスタートを切ったのだ。

この歴史的事実を知っている日本人が、いったいどれくらいいるのだろうか。

現在の日本でも、国債を日銀が買い取ったら、まったく同じようなハイパーインフレを引き起こすだろう。そして国が破産するとこのような徳政令を行なわざるを得ないのである。



'46.2.17の預金封鎖・新円切替に伴い、社債・国債等の代金支払は封鎖預金での支払のみが認められた。
銀行の利率をはるかに上回るインフレ率の為貯蓄債券もただの紙切れに等しいものになった。

普通の人がこれから株をやることは、私はあまりおすすめしない。私自身、この10年の間に株をやっていったこともあるが、あまり儲けることができなかつた。